

市民との対話事業 **市長とふれあいトーク**

実施日時	平成 26 年 10 月 24 日（金）（19：00～20：00）		
実施場所	中里支所庁舎	参加人数	18 人
参加対象	田沢第 3 地区振興会・田沢第 3 地区振興会役員及び住民		
懇談内容	<p>【1. 発言者】</p> <p>① 有害鳥獣駆除（主に鳥類）に対して多くの予算を配分してもらいたい。</p> <p>② 有害鳥獣が成獣（成鳥）になる前に対処はできないものか。</p> <p>【市 長】</p> <p>① 研修の場や猟銃の維持など、猟友会に対し津南町とともに環境づくりという面で積極的に支援している。駆除方法など根本的な対策は県と連携しながら対応していく。</p> <p>② 鳥に対しては卵をふ化させないなどの対策をしているが、生物学的に難しい点もあり、こちらも県と連携しながら対応していく。</p> <p>【2. 発言者】</p> <p>子育てには教育費等の多くのお金がかかる。若い女性が定住し、出産、子育てしやすい施策をお願いしたい。</p> <p>【市 長】</p> <p>現在の保育料は、子ども 3 人が同時に保育園にいれば保育料を下げるなど、教育に係るコストを下げる取組みはしている。3 人お子さんがいるだけで保育料を下げるという方策もあると思う。コストを下げる方策は市が積極的に行う。</p> <p>【3. 発言者】</p> <p>団塊の世代が高齢者となり、10 年後あたりが高齢化のピークと思われる。介護保険料が上がらないようお願いしたい。</p> <p>【市 長】</p> <p>特別養護老人ホームなどの施設整備を極力抑制してきたため、介護保険料は大幅には上がらないと思う。当市は健康で元気な方が多い印象である。保険料もしっかり納めてもらっており、今後も健康寿命を延ばすような方策を絡めながら、保険料が大幅に上昇しないよう対応したい。</p> <p>【4. 発言者】</p> <p>信濃川を観光資源として生かし切れていない。太田島の堤防の桜など、市内の信濃川流域全体で考えるべきではないか。</p> <p>【市 長】</p> <p>教育委員会では、小学 5 年生にラフティング体験してもらおうよう動き</p>		

始めており、信濃川に親しむ機会が増えていくだろう。また、「ミオンなかさと」の温泉トラフグは素晴らしいし、周辺に芸術祭作品もある。宮中ダムのエネルギー活用の可能性もある。

信濃川の水が増えたというこの変化を生かしたい。信濃川の魅力を中里からの発信できればよいと思っている。

【5. 発言者】

本庁から支所に凶面等の移動があり仕事の面で苦勞した。災害時の情報も本庁から支所という流れがあり遅い。本庁一極集中の体制ではなく、もっと支所機能を強化してもらいたい。

【市長】

今年度から支所機能を持つ市町村には手厚く支援すると、国の方針も変わった。当市は合併してから職員数が多いことは間違いなく、500人まで削減しようと進めてきた。今後、どのような職員をどの程度支所に配置すべきか精査する。支所への配置職員は増えると思う。

【6. 発言者】

若者の中には地元に戻ってきたい子もいるはず。高校を卒業した子がどこに行っているのか、情報を提供してもらえないか。

【市長】

機械で就学先などを簡単にまとめることは出来ない。やはり成人式などのタイミングを捉えて、地道に情報を集める方法しかない。市も同じ苦勞をしていることをご理解いただきたい。

【7. 発言者】

今の若い人は方言を魅力あるものとして感じてくれると思う。方言を生かした田舎の面白さや魅力発信はできないか。

【市長】

田舎や方言は恥ずかしいという時代は終わりにあって、魅力あるものと捉えてくれるこれからの若い人の感性に期待したい。祖父母も都会に住んでいるなど、今は故郷を持ちたくても持てない人がいる。私も折を見て情報発信をしていければと思う。